



我が大經營化ノ金融の源泉(2)

高島, 佐一郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 31(5):739-762

(Issue Date)

1921-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053370>



我が大經營化ノ金融の源泉 (其二)

名古屋高等商業學校教授
兼小樽高等商業學校教授

商學士 高島佐一郎

三

凡ソ一國ノ内ニ既存スル資本力、金融力ノ流レヲ適當ニ導キ若クハ其ノ方向ヲ轉換シ合成スルニヨツテ小中經營ヲ大經營化セシムルハ、上ニ述ベタルガ如キ企業竝ビニ金融階級ノ覺醒及ビ努力ニヨツテ實現セラレルモノデアル、而シテ本邦多數ノ事業ニ齎サルベキ大經營化ノ行程ハ概ネ之ニヨツテ促進セラル、モノト思惟スル。抽象的ニ云ヘバ Marshall ノ謂ユル輕量の諸工業 "light industries" ノ範疇ニ屬スルモノ、例ヘバ多數ノ家内工業、生絲、茶、羽二重、燐寸、花筵、洋紙、硝子等ノ製造業、染料藥品其他ノ諸化學工業等ノ類ヲ大經營化セシムルノ業ハ、國內既存ノ資本金融力ノ適當ナル動員ニ依ツテ遂行セラレ得ルト信ズルノデアル。本邦事業界ハ併シ乍ラ此ノ容易サヲモ捕ヘナイ。少シク岐路ニ馳スルケレドモ、最近本邦ニ

於テ頻リニ傳ヘラルル所ノ獨逸染料及ビ光學的硝子ノ不當廉賣 Dumping 從ツテ起レル幼稚産業保護ノ意味ヲ以テスル高キ關稅ヲ要望スルノ叫ビニ就テ一言セウ。思フニ此ノ種ノ謂ユル「獨逸産業ノ侵入」ノ聲ハ、今日ノ本邦ト同ジク曾テ戰前ノ英吉利ニ於テ聞カレタル所ナリシト共ニ、奇シクモ現下ノ米國ニアツテ全ク舉グラレザル所デアル。數年前ノ英國ト今日ノ本邦トニ聞カルル此ノ叫ビガ、戰後ノ米國ニ於テ、而カモ「幼稚産業保護關稅主義」ノ本家本元タル Carey ノ祖國「List」ノ第二ノ故郷ニ於テ再ビ今マ高唱セラルル所ナキハ、果シテシカン。之ガ解答ハ容易デアル。即チ前者ニ於テ閑却セラレタル同種産業ノ大經營化ガ、後者ニ於テハ既ニ根蒂深キ發達ヲ遂ゲ、カクテ既ニ侵略ノ恐れナキニ達シタレバデアル。實ニ米國ニ於テハ、夫ノ「Bayer Aspirin」ノ同國ニ歸化シ了レルガ如ク、光學的硝子ニ就テハ Neiss 工場ガ米國ニモ完成セル如キ狀ヲ呈スレバデアル。夫レ資本及ビ商品ノ國際的移動ヲ決スルモノハ、生産費並ビニ品質ニ外ナラス、之ヲ恰好ニ解決セズシテ關稅策ヲ云爲スルハ、正サニ馬前ニ車ヲツナグノ類ヒタラザルナキヲ得ナイ。併シ乍ラ茲ニ、上述セルガ如キ一國內ノ金融的動員ヲ以テシテハ、大經營化ヲ期待シ得ザル産業亦尠ナカラズシテ、是處ニテハ勢イ金融の源泉ヲ物色スルニ或ヒ

ハ外國ノ、或ヒハ外國ニ放置シアル資本力ニ就カネバナラスノデアルガ、本問題ノ重點ハ實ニ是ニアル。短言スレバ、我が産業中、カカル領域ニ屬スルモノハ、ソガ我が産業策ヨリ見テ極メテ重要ナルモノナルニモ拘ラズ、原料其ノ者ヲ國內ニ缺ク場合、若クハ斯カル重要産業ヲ能率化セシムベク最新機械ヲ用ヒテ大經營化セントスルモ、我が工業ノ現状ヲ以テシテハ技術的、資本的又ハ特許法上ノ制約ヲ受ケテ採用施行スルヲ得ザル場合等デアル。即チ我が商工營業所工場建築用ノ鐵鋼材、道路橋梁ノ建設材料、更ニ基本的ニ云ツテ銑鐵鋼材ノ原料、機械汽罐、電氣諸機械、殊ニ最新式ノ紡績機械等ニ對スル偉大ナル而シテ組織的ナル資本化、一層正確ニ云ツテ固定資本化ナルモノハ、概ネ之ガ金融的源泉ヲ勢ヒ海外ニ求メネバナラス運命ヲ有スル。前項ノ記述ヲ承ケテ再ビ Marshall ノ命名ニ從ヘバ、謂ユル重量的諸工業 "heavy industries" ノ要望スル原料若クハ機械等ハ、大體右ニ掲グルモノニ該當スルノデアルガ、斯ク自然的資源又ハ科學的進步ノ制約ヲ受ケテ大經營化ノ資料ヲ海外ヨリノ供給ニ俟ツベキ場合、之ガ金融的源泉ハ何ヅクニ求メラルベキカ。斯カル問ヒニ應ジテ、人或ヒハ、左ル意味ニ於ケル大經營化行程ニ就テハ、ソハ我が外國貿易ノ裡ニ間斷ナク行ハレツツアルニアラズヤト答ヘラレ、或ヒハ一九一

七年ノ交ヲ境ヒトシテ債權國民トナレル吾等ニトツテハ金融の源泉ハ却テ我レニアリ、磅公債佛貨公債ハ本邦ニ於テ募集セラレ、更ニ日支經濟同盟ト云フガ如キ對支投資スラ大イニ計畫セラレツツアルニアラズヤト反問セラルルカモ知レヌ。若シ斯カル反問ニ接セリトスルナラバ、筆者ハ却ツテ之ヲ縁トシテ其處ニ金融上ノ源泉ヲ討尋スルノ積極的竝ビニ消極的省察ヲ展開スル機會タラシメタク思フモノデアル。先ヅ謂ユル重量的諸工業ノ要望スル資料ガ輸入貿易ヲ通ジテ遂行セラレツツアルハ自明ノ數ニ屬スルケレドモ、之ヲ近時我が產業界ノ切望スル急速ヲ要スルノ大經營化ノ方法ト看テハ、此ノ輸出品ノ對價ヲ以テスル輸入ノミヲ以テハ到底不充分ナルヲ免レヌ。先ヅ國際聯盟ノ一條項タル謂ユル人道的勞働條件ナルモノガ近ク一切ノ聯盟ニ適用セラレ、更ニ勞働運動——而カモ既ニ高キ勞働能率ヲ有スル西歐勞働者ノ行フ勞働諸運動ガ、近時我が低キ勞働能力ノ所有者ニ依ツテ其ノ儘ニ行ハレントスルニ於テ殊ニ然カリデアル——ガ漸ク旺ンナルヲ致サントシテ、茲ニ我が事業界モ近キ將來ニ於テハ最早ヤ長キ勞働時間ト低キ勞銀トヲ以テ對外競爭手段タラシムルコトハ出來ヌ、斯クシテ國際競爭ノ武器ハ今ヤ大イニ大經營ニ俟タネバナラヌ。斯クモ急迫セル大經營化ノ行程トシテハ、正

當ナル輸入貿易ノ裡ニ漸成セラル、大經營化ニノミ依頼スルハ餘リニ緩慢ナル仕業タルヲ免レヌノデアル。此ノ點ヲ強調スルタメニ一例ヲ引クナラバ、筆者ノ滯英中、時ハ會々休戰草々ノ際ナリシガ、Westminster 議會ノ討議中ニ一議員ガ、戰時中紡績機械ノ卸賣の大消耗並ビニ新式機械ノ發明ノ事實ヲアゲ、從ツテ急速ニ之ガ全部ヲ改造更新スルノ功要ナルノ理由ヲ以テ、爾後暫ク英國製紡績機械ノ海外輸出ヲ禁止スベシトノ建策ヲナセルヲ賭タノデアル。勿論、斯カル第十八世紀的「マーカンチリズム」ノ思潮ヲ露骨ニ示セル建議案ハ敗レタノデアルガ、之ガ前提タル戰時中輸入杜絶ニヨル同機械ノ消耗並ビニ新機械ノ發明ト云フ事實ガ、若シ本邦ニ於テモ存在セリトスルナラバ、輸入ニヨル之ガ更新ノ業ハ急速且ツ大規模ニ行ハレナクテハナラス。即チ正當ノ貿易以外、一層人爲の方策ニ慙ヘラレネバナラスノデアル。斯クテ再ビ言フ、之ガ金融上ノ源泉ハ何ヅクニアリヤト。

之ニ關聯シテ其ノ積極的考察トシテハ、凡ソ三ツノ源泉ガ想像シ得ラルルト私見スル。外國替爲業者ヲ通ジ長期銀行手形發行ノ手段ニヨツテ國際的金融市場ヨリ比較的低利ノ資金ヲ借り入レ、且ツ満期日ノ到來スル毎ニ絶エズ之ヲ切り替ヘ行キ以テ金融の源泉ヲ絶エズ我レニ向ツテ開口セシムルハ其一デアリ。大經

營化若クハ設備ノ充實化ノ當事者タル企業自ラヲシテ、斯カル擴張又ハ組織變更ニ要スル資金募集ヲ成ルベク外國投資者ニ求メ、新株優先株又ハ社債券ヲ輸出セシムルハ其二デアリ。最後ニ我ガ政府及ビ日本銀行ノ勘定ニ於テ有スル謂ユル在外正貨正確ニ云ヘバ在外債權ヲバ一定ノ方法組織ノ下ニ私企業ノ爲メニ動員シ、以テ斯カル流動的債權ヲ生産資本化シ設備資本化スルノ方法ヲ規則化セシムルノガ其三デアル。凡ソ是等ノ金融的源泉ノ利用ハ、經濟上ノ新興國例ヘバ獨逸米國加奈陀濠洲等ガ何ヅレモ曾テ其ノ經濟發達ノ一階段ニ於テ實行セル所デアルガ、今日我ガ國ノ實際問題トシテハ幾干ノ可能性ヲ有スルカ。今マ簡單ニ之ヲ省察スルデアラウ。

先ヅ第一種ノ國際的資本交通ガ第十九世紀末葉以降近ク一九一四年ノ大事端ノ發生ニ至ルマデ、獨逸ノ大銀行並ビニ米國ノ箇人金融家が渠等ノ金融的先進國タル英佛國ヨリノ金融的源泉ヲ規則的ニ國內ニ流レ入レシムルノ方法ナリシコトハ、カノ Withers ヤ Escher ヤノ詳說セル所ニテアリ、又タ世間周知ノ所デアル。併シ之ガ實際問題トシテノ有效性ヲ備ヘ來ルニハ、國際金融ノ通則ニ從ツテ、在外金融的源泉其ノ者ノ豊富ナルト其ノ金利歩合ノ低廉ナルトヲ要スル、而カモ現狀ヲ

以テシテハ英佛ハ勿論、米國ト雖モ、右ノ二條件ヲ具備セズ、從ツテ多クヲ之ニ期待スルコトハ出來ヌ。(註一) 次ニ、曩キニ Holston ヤ Conant ヤノ闡明セル有價證券ノ輸出ニヨル第二種ノ金融の源泉ハ、實ニ一九一四年前ニアツテハ、常ニ巨大ノ事業資金ヲ要望セル米國及ビ加奈陀ノ企業界ガ、容易且ツ規則的ニ英佛ノ投資界ニ於テ發見シ利用シ來レル所ニテアリ、我が國亦、公債並ビニ第一流ノ社債類ニ就テ西歐先進國ノ資本市場ヲ源泉トシテ資金ヲ掬ミ取り來レル方法デアアル。(註二) ガ、併シ今日ノ問題トシテ斯カル金融の源泉タルベキ國卽チ證券輸入國民ハ歐米ノ何ゾレニ相セラルベキカ。"Statist" 誌ノ主筆、Sir George Paish ノ調査セル如キ英國ノ有價證券輸入ノ旺盛時代、卽チ海外事業ヘノ放資總額三百五十億圓ヲ超エ、之ガ利率ヲ年五分二厘平均ト看做シテ利子所得十八億圓ヲ超過シ、更ニ年々行フ所ノ新海外放資亦十六億圓以上ニ達シタリト云フガ如キ時代ハ、這般ノ非常時ヲ境界トシテ過去ノ夢ト化シタ、註三) 而シテ今後、少クトモ數年、内ハ事業改善廣ク經濟的復舊ノ資金ニ、將タ諸公債及ビ通貨ノ整理資源ニ追ハル、ト共ニ、外ハ Vissering ヤ Keynes ヤノ戰時中ノ外債天引キ論アルニモ拘ラズ米國ニ對スル尨大ナル債務履行ノ業ニ忙ハシク、到底我が事業資金ノ源泉タルヲ得ナイ。又タ開戰直前英國ニ次イデ、

即チ百八十億圓ノ國際債權國民タリシ佛蘭西ノ久シクモ誇示セル偉大ナル國際的資本源泉ガ今ヤ全ク涸渴セルハ言フ俟タヌ。(註四)斯クテ殘ル所ノ米國ハイカニト顧ミルトキ、吾人ハ其處ニモ若干ノ不利ヲ見出ス。即チ同國ガ經濟上ノミナラズ政治上ノ意味ヲ有スル南米諸國並ビニ加奈陀ニ於テ一層引力強キ放資口ヲ控フル、國內ノ事業資金需要ノ常ニ活潑且ツ巨大ナル、而シテ從ツテ其ノ金利歩合ハ兎モ角トシテ證券利廻リガ本邦ニ比較スルモ尙ホ概ネ高キヲ示ス、等ノ事實デアル。加之、一九一五年以降、同國銀行制度ノ改善セラレテ、其ノ聯邦準備銀行ハ戰時中並ビニ戰後直チニ各國中央銀行ト代理契約ヲ結ブト共ニ、大國立銀行大信託會社亦、海外支店、殊ニ南米及ビ東洋諸國ニ支店代理店ヲ開設シ、銳意シテ Kemmerer ノ謂ユル「米國ノ外國貿易及ビ金融ノ國際化ノ大業」ニ努力シツ、アルケレドモ、(五)之ヲ概觀スレバ同國銀行業ハ今尙ホ國際的金融ニ關スル完全ナル組織ヲ有セナイノデアル。

斯クシテ最後ニ、我が政府及ビ日本銀行ノ所有ニ係カル在外債權ノ生産資本化的動員トモ云フベキモノガ本問題ノ議ニ上ボリ來ル譯合デアルケレドモ、若干ノ世論ハ必ズ之ニ反對スルデアラウ。或ヒハ夫ノ倫敦及ビ紐育ニ存置セラレテキ

ル在外正貨、正確ニ云ヘバ在外債權ナルモノハ大イニ國際貸借ノ決濟用タルモノニテアリ、コノ十億圓内外ノ債權ノ如キハ方今ノ輸入超過ノ趨勢ヲ以テスレバ暫ラクナラズシテ消失スベキガ故ニ、之ヲ存置スルハ年々現實ノ金輸送ヲ不便不經濟ヲ免レシムル所以タルト云フ理由ニ於テ。或ヒハ斯カル在外債權ノ重要部分ハ常ニ一種ノ外國爲替資金トシテ利用セラレタルモノナレバ、之ガ生産資本化ハ延ヒテ私ガ對外爲替ノ安定鞏固ヲ害フベシトノ根據ニ於テ。或ヒハ有力ナル外國爲替銀行ガ比較的巨額ノ在外債權ヲ保有スルハ、カノ將來ニ發生スベキ爲替相場ノ變動、例ヘバ其ノ低落ヲ見越シテ行フコトアルベキ手形ノ先物賣リヲ營ミ得ルノ利益アリト云フ理由ニ於テ。又タ或ヒハ在外正貨ノ存置ガ我ガ外債市價ノ維持若クハ新外債ノ募集ニ當リテ有利ナル條件ノ確保ノ爲メニ必要ナリトノ見地ニ立ツテ。最後ニ一見更ニ實際的ナル如ク立言セラレテハ、既ニソハ在外正貨ニアラズシテ債權タリ、サレバ其ノ外國公債化セラレオル部分ニ就テハ利子ヲ收得シオリ、又タ銀行預金トナリオレル部分ニ就テハ過ギ去レル戰時中ニ於テハ勿論、今日ト雖モ英國一流銀行ト結ベル特殊ノ契約ニヨツテ相當ノ利子ヲ得ツ、アルモノナリト云フガ如キ論據ニ於テ。思フニ我ガ在外債權ノ有スル「魔術性」ハ

爲メニ、吾人ヲシテ之ガ内容又ハ運用ノ現實ヲ視ヒ知ル所ナカラシムル、從ツテ實際ニ立脚シテノ論議ヲ試ムル事能ハザルヲ遺憾トスルケレドモ、學窓ニ投入セラレタル暗キ併シ乍ラ單純純真ナル光線ノ下ニ觀察スルナラバ、凡ソ左ノ如キ議論ヲ以テ叙上假設的ノ反對論ニ應酬シ得ルト思フ。

其ノ一ノ議論ニ對シテハ今日本邦ノ國際貸借ハ必ズシモ習慣的借方勘定ニ立モノニアラズ、其ノ太宗タル商品輸出入ニ關シテハ近時謂ユル支拂勘定ニ立ツト雖モ、之ガ一因ハ過去數年間輸入セラルベクシテ而カモ爾カセラレザリシ物資ノ一時ニ殺倒セルニアルノミナラズ、海運所得、債權利子、其ノ他ノ無形輸出ヲ加量スレバ、國際貸借均衡上必ズシモ悲觀スルヲ要セズ、而カモ一步ヲ讓リテ借方ニ立ツトスルモ、在外債權ヲ生產資本化スルハ卽チ將來の輸出能力ヲ發達セシムルモノニ外ナラザルガ故ニ、斯カル議論ニハ眞實ノ根據ナシト答フル。加之、更ニ觀點ヲ更フレバ、巨額ノ在外債權ガ直接若クハ間接ニ輸入ヲ助勢スル、又タ一國ガ金ノ流出入ニ就テ眞ノ金自由市場“free gold market”ノ實ヲ備ハルノ寧ロ望マシキ、等ノ理由ヲモ舉ゲ得ルノデアル。次ニ第二ノ反對ニ對シテハ、然リ、若干ノ常置的爲替資金ハ必要ナリト雖モ、而カモ通常ノ爲替資金 balance abroad; foreign balance ナルモノ

ハ、Escher が最モ剴切ニ説明シオレルガ如ク、原則トシテ銀行業者ガ一方ニ於テ絶エズ輸出業者等ノ手形即チ商業手形ヲ買ヒ、他方之ニ對シテ亦絶エズ自己手形即チ銀行手形ヲ賣リモテ行ク所ノ規則的爲替業務ノ裏ニ自働的ニ存置セラル、性質ノモノニテアリ、而シテ之ヲ以テ足リ、從ツテ必ズシモカノ數億圓ト云フ如キ巨額ノ常置的資金ヲ要スルモノニアラズ、^(註六) 又タ實際上、戰前ニ於ケル埃洪國若クハ獨逸ガ實行シタリシ外國手形政策 *Devisenpolitik* ニヨルノ在外債權存置モ其ノ額ニ於テ決シテ斯カル巨額ヲ示セルコトナシトノ理由ヲ以テ之ガ無稽ナルヲ論證シ得ベキデアル。第三ニ先物賣リヲ行フノ利益アリトノ說、若シアラバ、苟クモ一國國民經濟ノ對外活動ノ成果ヲ綜合體現セル所ノ對外債權ナルモノ、斷ジテ一銀行ノ投機的資金トシテ濫用セラルベキニアラズ、又タ縱ヒ先物賣リノ慣行ガ爲替相場ヲ安定化スルニ重要ナリトスルモ、之ニ要スル資金ハ決シテ巨億ヲ要スルニアラズ、ト筆者ハ答フル。第四ニ對シテハ答ヘハ簡明デ濟ム、イカントナレバ往年、桂内閣時代ニ於テハ必要ナリシ我ガ外債市價維持ノ爲メニスル在外正貨ノ常置蓄積ハ、今日全ク其ノ存在理由ヲ失ヘルアリ、又タ西歐資本市場ニ於テ新公債新社債ヲ募集スルノ近時殆ンド不可能ナルアリ、ト約言スルヲ以テ足ルカラデ

アル。若シ夫レ最後ノ是等在外資金ノ浮動のナル事實ヲ目シテ資本利子ヲ生ムノ源泉ナリテフ根據ニ立ツテ之ガ現狀維持ヲ可ナリトスルノ説ニ至ツテハ、筆者ガ本文ニ於テ最も重要視セントスル消極的考察、即チ本邦ノ現狀ヨリ察スレバ、資金ヲ資金トシテ海外ニ放資シ運用スベキニアラズトスルノ省察ニ一暗示ヲ供スルモノニテアリ、次ニ項ヲ更メテ細論セント欲スルノデアルカラ、今ハ唯ダ、我が産業ノ大經營化テフ大問題、輸出工業主義ノ確立テフ緊急問題ヲ眼ノ當リニ控フル吾等ハ、近時偶然的ニ爾カ稱セラレタ而カモ皮相的ナル債權國民ト云フ虛名ニ欺カレテ一時ノ安キヲ貪ルベキデナイ、ト切言スルニ止ドメル。

1. Escher, Foreign Exchange Explained, pp. 91-101.
2. Withers, Money-Changing, pp. 60-63.
3. Do., pp. 64-65.
4. Huth, Entwicklung der deutschen u. französischen Grossbanken, S. 131.
5. Kemmerer, ABC of the Federal Reserve System, 1919, pp. 79-81.
6. Escher, op. cit. pp. 170-171.

上ニ縷述シ來レル所ヲ承ケ、我ガ國現下ノ企業規模、能率ノ狀態ヲ省察シテハ、カ
ノ貿易金融ヲ圓滑ナラシムルノ便宜手段トシテノ外、資金ヲ資金トシテハ斷ジテ
外國ニ貸與スルノ不可ナルヲ論ズルニ當リ、之ガ前提トシテ近時本邦一部ノ論客
スラ尙ホ爾カク信ゼルモノ、如キカノ債權國民タルノ實質ヲ吾人果シテ有スル
ヤ否ヤヲ檢覈スルノガ、概念構成ノ順序ナリト思惟スル。之ニ關聯シテハ、恰モ歐
洲禍亂ノ前年ニ公刊セラレタル Hartley Withers ノ「爲替論」中、頗ル有名ナル一章ニ於
テ同著者ガ「外國投資並ビニ有價證券輸入」ノ問題ヨリ考ヘテ各國ノ經濟發達上經
驗的ニ三階段ノ劃セラルベキヲ論述セル條リヲ紹介シ、之ヲ緣トシテ右ノ命題ヲ
解クヲ便宜ナリトセウ（註一）即チ其ノ第一階段ニ屬スルモノハ加奈陀、露西亞、日
本等ノ經濟的後進國ニテアリ、之ヲ特徵付クルモノハ有價證券輸出從ツテ商品ノ
輸入超過デアルトシ。第二階段ニ位置スルモノハ之ヨリ一層發達セル米國、濠洲
等ニテアリ、一方有價證券ノ輸出ヲ行ナヒツ、モ、ソレヨリモ一層多ク前債務ニ對
スル利拂ヲ爲サザルベカラズ從ツテ輸出超過ヲ特徵トナストシ最後ノ階段ニ坐
ヲ占ムルモノハ英、佛、獨、白、蘭、瑞西等ニテアリ、既ニ國際的ニ有スル債權巨額ニ達ス
ルガ故ニ、新タニ有價證券ヲ輸入スルヨリモ尙ホ一層多クノ利拂ヲ受ク、從ツテ輸

入超過ヲ示スト云フノデアル。右ノ論述ノ時ハ今ヤ數年ヲ距ダテ、其ノ間國際基局ヲ一變セシメタル大事端アリ、從ツテ特定ノ邦國ノ發展上ノ階段ニハ自ヅカラ變化ガ起ツタモノデアルガ、之ガ理義ニ就テハ今尙ホ有効性ヲ失ハズ、シテ、私見スル所ニヨレバ眞ノ意味ニ於ケル債權國民トハ、其ノ第三階段ノ有スル特徵屬性ヲ具フルモノニ限ラルベキデアル。今姑ラク之ヲ判斷ノ標準トシテ考フルナラバ、戰後ノ米國ガ一躍ヲ試ミテ第二ヨリ第三階段ヘノ進展ヲ遂ゲタルハ明白ナレドモ、我が國民經濟ハ確カニ第一ヨリ第二階級ヘノ躍進ヲナシタケレドモ、尙ホ戰前ノ米國ノ如ク、未ダ盛ンニ流動資本ヲ固定資本化シ以テ企業設備ヲ充完スルニヨツテ商品輸出超過ノ時代ヲ繼續スベク、絶エズ國際市場ニ於ケル借手トシテ立タネバナラヌ、斷ジテ國際市場ニ於ケル貸手タルベキデハナイ。又タ再言セルガ如ク、若シモ我が國ノ經濟的文化ノ一表象タル住宅、工場、道路若クハ生産手段ヲ改善シテ西歐先進國ニ於ケル夫レト同列ニ立タシメント欲セバ、今日吾等ノ有スル若干ノ對外債權若クハ在外債權ノ如キハ條忽トシテ煙散シ盡サルルトモ尙ホ足ラヌノデアアル、斯クシテ吾等ハ眞ノ債權國民ノ何物デモナイ。思フニカノ一切産業ノ礎石ヲナス製銅業ノ計數ヲ案ジテ、米國ニ於ケル年製銅高三千萬噸ナルニ對シ、

我が國ニテハ一年ノ鋼材需要額三百萬噸ニ對シテ其ノ製鋼高其ノ半パニスギズトスル如キ、又ハカノ合衆國製鋼會社ノ總財産ノ二十年前既ニ二十八億圓ヲ超エタルニ對シ本邦製鋼業ヘノ總投資額ノ僅カ二億五千萬圓内外ナリトスル如キ、太ダシキ對照ノ皮肉ヲバ、限リナク舉グルコトハ、吾人ノ自負心ヲ傷クルコト鮮少デハナイ。而カモ斯カル一二ノ事例ニ就クモ、吾人ガ方今ノ狀勢ヲ以テ既ニ債權國民タリトナス如キノ自負心ヲ抱クハ、明カニ錯覺デアリ自己欺瞞デアラネバナラス。

カクノ如クニシテ今日西歐ノ數先進國及ビ米國ニ於テ大成セラレタル謂ユル大機械の大生産“machiofacture”ノ時代ニ於ケル、我が産業的經營上ノ此ノ時代錯誤的ナル現狀ニ思ヒヲ走スルトキ、一層合理的ナル大經營化ヲ目標トシテ、吾人ハ今マ内外一切ノ資本的金融資源ヲ動員スルノ急務タルヲ痛論セザルヲ得ナイ。斯カル秋、軍備擴張トカ、尨然タル國帑ヲ消失スル——而カモ英吉利スラ夫ノ白海ヤArchangelsヤニ遠征セルノ過誤無用ヲ認メテ兵ヲ撤セルノ既ニ三年前ナル今ニ於テ——無用無名ノ遠征トカノ聲ガ、イカニ洞ロナル内容、錯誤セル思潮、國際政局ニ對スル遠大徹底セル洞見ノ缺乏ヲ傳ヘヤウトモ、吾人今ハ姑ラク之ヲ論外ニ置ク。

併シ乍ラ唯ダ斯カル金融的源泉ノ探究利用ニ早忙比ヒナカラントスルニ當リ、イカニ善隣ノ計ヲ策スルトハ云ヘ、國費支出ヲ伴フベキ謂ユル日支經濟同盟ト云フ如キ說ノ時ノ權力者ノ口ヨリ公然ト聞カルルニ至ツテハ、一言ナカルベカラザルヲ感ズルノデアル。吾人ハ之ガ提唱者ノ「遠大ナル理想」ニ對シテハ、必ズシモ共鳴スル所ナクハナイモノデアルケレドモ、數年ニ亘ツテ僅々二三億圓内外ノ支出ヲ試ミ以テ縱ヒ政治的ナラズトモ、經濟的ニ債務國ヲ金ナ縛リシ得ベシト想定スルニ至リテハ、其ノ餘リニ國際投資關係ノ復雜性ヲ單純視シ又タ善隣國民性ニ關スル洞見ノ貧シキヲ憾マザルヲ得ヌ。即チ前キニ貸セルモノノ權利自由ガ、後トヨリ來ルベキ——今日ノ米國、數年後ノ英國ハ、若シ之ガ必要ヲ看取スルナラバ、容易ニ我レヨリモ偉大ナル債權ヲ設定シ得ル——一層強大ナル債權者ニ對シテ、何等優先橫ヲ主張シ得ヌデアラウ、又タカノ國民性ノ太ダシキ事大主義的ナルヤ、到底恒久的ナル國際契約ノ相手タルヲ得ナイデアラウコトヲ想望シ來ルノトキ、吾人ハ先ヅ須ラク一切ノ資本的源泉ヲ國內ニ向ツテ放流スルノ一層選ムベキノ所以、而シテ内ヲ灌漑シテ然ル後チ餘力自ヅカラ發スルヲ俟ツテ外ニ放流スルノ一層賢明ナル所以ヲ悟ルベキデアル。ガ、併シ乍ラ斯カル政策ニハ、實際上吾等ノ學窓ニハ

投入シ來ラザル機微ナル事情アツテ之ガ決定ヲ左右スルモノデアラウガ故ニ、此ノ點ヲ深ク論議スルヲ避ケ、茲ニハ唯ダ總括的ニ、政治上ノ目的ヲ以テセル場合ハ勿論、經濟的支配ヲ目標トセル對外貸付ト雖モ、一トタビ國際紛爭ノ發生シタルヤ、其ノ如何ニ無力無効ナリシカヲ、近ク獨佛兩國ノ嘗メ盡セル辛ラキ經驗ヲ物語ルニヨツテ、筆者ノ主張ヲ間接ニ傳ヘタク思フ。而シテ斯カル消息ヲ可ナリ生キ生キト記述セルノ近著ニ、獨逸人 Walter Huth ノ著述、「國民經濟ノ發達ニ關聯シテノ獨佛大銀行ノ發展ガアルガ、今マ其ノ第七章「國際經濟及ビ世界政策上ニ於ケル獨佛大銀行ノ活動」ノ後半ノ梗概ヲ摘錄スルデアラウ。(註二)

「獨逸大銀行ガ大膽ニ併シ乍ラ周密ニ試メル獨逸產業、殊ニ輸出工業助長策ハ、佛蘭西大銀行ノソレニ比較シテ慥カニ一層大イナル成功ヲ收メタ。ガ、佛蘭西ノ金融力ハソノ傳統的ナル高等政治的目的ヲ伴フ對外貸付ノ領域ニ於テハ、殊ニ一旦緩急ノ發生セルトキ、カレガ依ツテ以ツテ信賴シ得ベシト想定セル第二流國ニ對スル借款政策ニ於テハ、實ニ異常ノ成績ヲ示セルノデアル、蓋シ是レ Lair ノ謂ユル「國際紛爭ノ眞ツタダナカニ當リテ資本ノ力コソハ一國政府ガ最も有力ニ使用シ得ベキ最大武器タリ」ノ趣旨ヲ夙ニ準備セルモノデアル。ゲニ佛蘭西ハ此ノ彈丸

硝藥ヲ行使セルニ於テ一切ノ國民ニ優越ス、而シテ其ノ目的ハ一ニ非常時ニ於ケル報償 *revanche* ニ外ナラズシテ、之ヲ考慮セスシテハ同國ガ無算當ニ非經濟主義的ニ許容セル對露貸付、對土借款ヲ諒解スルヲ得ナイ。ガ併シ乍ラ我が獨逸モ亦、縱ヒ其ノ主タル目的ハ經濟的勢力範圍ヲ維持シ擴張シ鞏固ナラシムルニ存シタリトスルモ、同時ニ副目的トセル政治的接近ヲ助長スベク旺ンニ第二流國ヘ投資セルハ爭ヒ得ヌ所デアル。而カモ經濟的開發上最モ多ク獨逸ニ負ヘル二國即チ伊太利及ビルツマニアニ依ツテ太ダシク裏切ラレタノデアル。案ズルニ一八九五年乃至九七年ノ恐慌後、獨逸金融力ハ伊太利ノ二大新設銀行 Banca Commerciale Italiana; Credito Italiano ノ資本金ノ大部分ヲ醸出シ、ソノ水力電氣ノ事業ノ大部分ニ對シテ資本的經營的ノ關與ヲ施コシ、又ハ其ノ他ノ殆ド有ユル重要產業ニ投資セルノミナラズ、獨逸ノ專門技術家亦タ往イテ之ガ實際經營ニ參ゼルノデアリ、斯クテ Fianinjo ヲシテ明白ニ、近世伊太利ヲ以テ『獨逸ノ製作物』"ein Werk Deutschlands" ナリト承認セシムルニ至レルノデアル。ルウマニア亦然リ、即チ其ガ獨逸ニ反嚙シテ戰ヲ宣セル當時、其ノ總國富ノ實ニ四割三分ハ獨逸ノ投資ニ係カリ、其ノ石油事業ハ專ラ獨逸ノ資本ニヨツテ經營セラレタ。而カモ斯克獨逸カ其ノ聳キ經濟

同盟トシテ依頼セル第二流國ハ凡ソカレニ裏切レルノヲ見出シタノデアル。然レドモ佛蘭西モ亦此ノ點、獨逸同然ノ苦ガキ體驗ヲ經タ、即チ土耳其及ビ露西亞ハ戰前永ク獨逸並ビニ佛蘭西ノ爭覇角逐ノ中原タリシノデアルガ、獨逸ハ露西亞ニ叛カレ、而シテ佛蘭西ハ土耳其ニ裏切ラレタ、土耳其ニ對シテハ佛蘭西ハ最大債權國タリ、開戰直前、實ニ二十五億佛ノ投資ヲナシテキタノデアル。

獨逸人近時ノ時事論議論策ニハ極メテ數々見ユルガ如キ夫ノ自國本位ノ議論ノ跡ガ必無デハナイケレドモ、叙上ノ節ヲ辿ドリ來ツテ展開セラレタル謂ユル經濟同盟ノ繪卷物ハ、吾人ニ啓示スルニ何物ヲ以ツテスルノデアルカ。是レ實ニ、一方ニ於テハカノ甫メヨリ帝國主義的勢力政策トシテ之ヲ行ヘル場合ハ勿論經濟的勢力政策トシテ營メル場合ニアツテモ、一旦緩急アルニ際シテハ對外貸付ノ必ズシモ頼ムニ足ラザルヲ實證セルト同時ニ、他方ニ於テハ此ノ同一資金ト此ノ同一産業の精力トヲ提ゲテ、國內産業ノ發達充實ヲ促進スベク行使スルノ一層賢明ナルヲ教フルモノデアラネバナラス。勿論、經濟發達ノ最高階級ニ達セル曉ニ至ラバ、戰前、英佛白國等ノ資本市場ガ實示セルガ如ク、而シテ古ルクハ Ricard、近クハ Hobson ガ最モ理論的ニ其ノ必然性ヲ記述セルガ如ク、金融經濟ノ理法ノ示ス所ニ

從ツテ一國資本ハ必ズヤ海外ニ流ル、ガ、然カル際マデハ、吾人ハ須ラク自重隱忍シテ自國產業ノ根蒂ヲ培養シ又タ廣ク自國社會文化ノ向上ニ資スルベク、一切ノ資本の金融の源泉ヲ專ラ國內產業ニ導キ入ルベキデアル。而カモ暫ク斯ク隱忍スルハ即チ臆ガテ眞ノ債權國民タルノ前提ニ外ナラス。顧ミルニ本邦經濟上ノ論調ニハ英國の經濟觀ノ普及セルノ餘マリ、債權國民タルノ地位ヲ過重視セルノ跡ナクハナイ、而カモ英國ノ實ナクシテ英國ノ名ヲ徒ラニ追フハ愚カナル仕業デアル。カノ Withers ノ説ケルガ如キ眞ノ債權國民タルノ實質ハ、既ニ完成セラレタル——生産技術ノ發達ニツレテ日々絶エズ發展シ行クハ言フマデモナイケレドモ、其ノ時代ニ於テハ——近世產業ノ全組織ヲ有シ國內產業ノ組織規模經營ノ改善ニ對シテハ最早ヤ、少クトモ其ノ當時ニ於テハ、ソレ以上ノ放資ヲ要セズ又タ新投資ノ餘地ヲ剩サズ、資本利子ノ比較的低廉ナルニ及ンデ、資本ノ國際的移動ノ法則ノ示ス所ニ從ガヒ自働的ニ内資ノ海外ニ流出スルニ至ツテ甫メテ、然リ初メテ成立スベキモノデアル。カノ英吉利ガ奈翁戰後著シク發達シ來レル、債權國民ヘノ堅實ナル而カモ徐々タル道程ハ克ク之ヲ實證スル。カクシテ吾人ハ、僅々十億圓内外ノ黃金ヲ蒐集シ、十億圓ノ在外債權ヲ取得シ得タルヤ、ソガ一方ニ於テハ國際的

變局ノ與ヘタル偶然ノ賜デアリ、他方ニ於テハ國內産業ノ末ダ極メテ幼稚ナルヲモ打チ忘レテ、早クモ既ニ債權國民ヲ云爲スルノ精神態度而シテ其ノ表現ヲ排斥スルモノデアル。

早クモ企業精神ノ衰ヘ金貨的精神一世ヲ支配セル第十九世紀後半以降ノ佛蘭西ノ轍ハ、吾人ノラ再ビ踏ムベキデナイ。而シテ吾人ノ宗トスベキハ同世紀後四分ノ三以降ニ於テ示サレタル獨逸ノ産業金融政策、正確ニ云ヘバ其レヨリ帝國主義的勢力政策ヲ除キ去レルモノニ在ル。カレハ國內産業ノ發達改善充實ノ完成ニ至ルマデ、國際的債務者トシテ旺ンニ外國資本ヲ利用シ、而カモ實質的債權國民タルニ至レル後モ、尙ホ絶エズ國際金融市場ニ於テハ最モ有利敏活ニ短期資金ヲ利用スルヲ怠ラザリシノデアル。カクシテ戰前同國ノ到達セル輸出工業主義ハ西歐諸國ノ獨逸ノ産業的歸略トナリ、謂ユル「獨逸製品」ハ英佛商品市場ノ脅威トハナツタ。而カモ之ヲ以テシテ尙ホ今日ノ非運ニ陷レルハ、實ニ其ノ經濟發達ノ裏ラニ燃エタル軍國的精神ノ業火ニ外ナラヌ、是レ吾人ガ侵略的精神ヲ除去セル上ノ夫ノ獨逸ノ企業的精神ヲ宗トスベシト云ヘル所以デアル。思フニ舊獨逸國ガ然リシガ如ク、我ガ國ノ廣袤ハ米國ノ一州テキサスニ及バズ、我ガ人口ハ米國ノ半

バ、而シテ經濟的資源ハ我レ彼レノ十分一ニモ達セヌ、コノ「ハンデキャップ」ヲ以テ軍備上ニ競争スルハ素ヨリ不能ノ所デアラウ。ケレドモ産業上ノ若干領域ニ於テハ、カノ獨逸ガ旺ンニ「獨逸産業ノ侵略」ヲ米國ニ向ツテ試ミ而シテ華々シク成功セルガヤウニ、我が國産業亦必ズシモ米國ノ夫レト拮抗シ得ラレヌコトハナイ、殊ニ第三市場ニ於テハ。而カモ是レ實ニ、我が多數企業ノ大經營化、近世的設備ノ充實ヲ前提スル。而シテマタ是レ實ニ、筆者ガ我が金融の源泉ヲ一ニ專ラ國內ニ向ツテ動員スルノ必要ヲ云ヒ、消極的ニハ之ヲ海外ニ放流スルノ時期ニアラズトスル所以デアル。

願ミルニ第二十世紀初頭以來、資本輸出ニヨツテ經濟的世界政策ヲ劃策セル獨逸スラ早クモ一九一六年ニハ其ノ過誤タルヲ認メ、カノ有名ナル *Frankfurter Zeitung* ヲ代辯者トシテ一ノ消極的言辭ヲ洩ラサシメタ。筆者モ亦、本邦經濟ノ現狀ヲ考察シテ此ノ獨逸經濟時論界ノ權威ト共ニ、左ノ如ク云ハント欲スル(註三)「金融的手段ニヨリテ政治的及ビ經濟的ニ他國民ヲ從屬セシメントスルノ業ハ全ク不可能デアル。イカントナレバ債務者若シ弱キ場合ニハ暫ラクシテ債權者ヨリ來ル壓迫ノ耐ヘ難キヲ訴ヘテ他ノ新債權者ニ趨ルベク、又タ債務者若シ強大ナル場合

ニハ遂ニ債權者ヲ支配セズンバ止マザルベケレバデアル。而シテ是レ、各國ノ政治家ガ眼ヲ開イテ此ノ度ノ大戰ノ經驗カラ學ビ來ラザルベカラザル大教訓デアル。夫レ、戰前ニ於テ西歐先進國ノ資本家の精神ヲ遍ネク蠱惑セシメタル資本輸出ニ就テハ、事實上今後永キニ亘ツテ之行フノ餘裕ナカラシ、蓋シ一方、カクシテ帝國主義的海外投資ノ全然無効ナルヲ體驗セシメラレタルモノアリ、他方、有ユル國民ハ、第一ニ而シテ何ヲ措キテモ先ヅ、國內ニ於ケル經濟上ノ生産力、並ビニ抵抗力ヲ強大ニシ鞏固ナラシムベク、イカニ豊富ナル資本スラモ尙ホ其ノ乏シキヲ憂フベケレバデアル。而シテ國內ノ生産力給付力ヲ充實シテ尙ホ餘力アラバ、即チンハ『未ダ解決セラレザル而カモ緊切ナル幾多ノ自國民ノ爲メニスル文化的社會的諸事業』ニ使用セラルベキデアルト。而シテ筆者姑ラク此ノ言說ヲ本邦ニ移シ來ルノトキ、殊ニ其ノ最後ノ一句即チ未ダ解決セラレザル自國民ノ爲メニスル幾多ノ文化的社會的諸事業テフ一句ガ、如何ニ皮肉ニ響クカラ、之ヲ具體的ニ云ヘバ教育、社會的娛樂、休養ノ設備、救貧、養老ノ諸制度、道路、建築、殊ニ住宅等ノ文化的社會的諸施設諸事業ノ、正サニ爲サルベクシテ爲サレザルモノ、夥ダシキコトノ我ガ國ノ如キハ蓋シ西歐諸國民ニアツテ曾テ見ザル所ナルヲ高唱シテ茲ニ筆ヲ擱

クデアラウ。(大正十一年八月二十日)(完結)

1. Wihers, Money-Changing. Chap.iii.
2. Huth, Die Entwicklung der deutschen und französischen Grossbanken im Zusammenhange mit der Entwicklung der Nationalwirtschaft. 1918. SS. 134-141.
3. Frankfurter Zeitung; 10. September 1916- 1. Morgenblatt,